



# 十六銀行



# 十六総合研究所

2024年11月29日

各位



## 三幸運輸株式会社との ポジティブインパクトファイナンス契約の締結について

株式会社十六銀行（頭取 石黒 明秀、以下「当行」といいます。）および株式会社十六総合研究所（社長 佐竹 達比古、以下「当社」といいます。）は、三幸運輸株式会社（代表取締役 澤井 博）とポジティブインパクトファイナンス（以下「PIF」といいます。）契約を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

PIFは、当行および当社にて、事業者さまの活動が外部（環境・社会・経済）に与えるインパクト（影響）を評価（特定・分析）し、ポジティブなインパクトの創出とネガティブなインパクトの低減に資するKPIを設定のうえ、定期的なモニタリングを通じてその達成に向けた取組みを支援していくことを目的とする資金調達手段です。

当行および当社は、PIFを通じて事業者さまと共通価値の創造をはかり、ともに持続的な成長を目指してまいります。

記

### 1. PIF契約概要

コース	ローンコース
融資金額	50百万円
資金使途	運転資金
期間	5年

### 2. 企業概要

所在地	愛知県春日井市坂下町7丁目795番地6
事業内容	一般貨物自動車運送事業
設立	1991年11月
資本金	10百万円

### 3. インパクト評価（要旨） ※ 詳細は後掲の「評価書」をご参照ください。

特定インパクト	K P I	関連SDG s
輸送サービスによるサプライチェーンへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030年3月期までに大型免許保有者を45名まで増加させる。 (2024年8月現在：34名)</li> <li>・ 2030年3月期までに売上高10億円以上を達成する。 (2024年3月期実績：7.3億円)</li> </ul>	 
環境に配慮した事業活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030年3月期まで4tトラック(10台/全24台)の平均燃費を毎年前年比10%以上ずつ改善していく。 (2024年3月期実績：約4.6km/L)</li> <li>・ 2030年3月期まで10tトラック(14台/全24台)の平均燃費を毎年前年比5%以上ずつ改善していく。 (2024年3月期実績：約3km/L)</li> </ul>	
働きやすい労働環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030年3月期までに、従業員一人当たりの有給休暇取得日数を15日以上とする。 (2024年3月期実績：10日)</li> </ul>	

以上

【本件ご照会先：経営企画部 広報・IR室 TEL 058-266-2511】

三幸運輸株式会社  
ポジティブインパクトファイナンス評価書

2024年11月29日



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

十六総合研究所は、十六銀行が三幸運輸株式会社（以下、「三幸運輸」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクトおよびネガティブインパクト）を分析・評価した。この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、十六総合研究所が十六銀行と共同で開発した評価体系に基づいている。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

# 目次

<b>1. 企業概要と理念、サステナビリティ</b> .....	- 3 -
(1)三幸運輸の概要 .....	- 3 -
(2)三幸運輸のサステナビリティ .....	- 4 -
<b>2. インパクトの特定</b> .....	- 7 -
(1)事業性評価 .....	- 7 -
(2)バリューチェーン分析 .....	- 7 -
(3)インパクトレーダーによるマッピング .....	- 8 -
(4)特定したインパクト .....	- 11 -
(5)インパクトニーズの確認 .....	- 14 -
(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認 .....	- 16 -
<b>3. インパクトの評価</b> .....	- 17 -
<b>4. モニタリング</b> .....	- 20 -
(1)三幸運輸におけるインパクトの管理体制 .....	- 20 -
(2)当社によるモニタリング .....	- 20 -

## 1. 企業概要と理念、サステナビリティ

### (1)三幸運輸の概要

#### 【企業概要】

社名	三幸運輸株式会社
代表者	代表取締役 澤井 博
本社所在地	愛知県春日井市坂下町 7 丁目 795 番地 6
事業内容	一般貨物自動車運送事業
資本金	10 百万円
設立	1991 年 11 月
売上高	738 百万円 (2024 年 3 月期)
従業員数	56 名 (2024 年 8 月現在)

三幸運輸は、愛知県春日井市に本社を構え、主に冷凍・冷蔵食品の運送事業を手掛け、東海エリアを地盤とし、地域に密着したスタイルで事業を展開している。

同社は「安全はすべてに優先する」を経営理念として掲げ、最高水準の冷凍・冷蔵設備を採用し「食の安全」を確保するとともにデジタルタコグラフやバックモニター等の安全設備を搭載したトラックを積極的に採用し「ドライバーの安全」を確保することによって地域に安全な食品を供給している。



※以下、参考資料としての画像は同社 HP より引用



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

## (2)三幸運輸のサステナビリティ

同社は、先述の「安全はすべてに優先する」という経営理念のもと、「食品品質の安全」と「従業員の安全」の両立にこだわった事業活動を続けてきた。

食品品質の安全を満たすために、積極的・定期的に設備投資を実施し、その時々最高の品質の冷凍車を採用することを意識している。

従業員の安全に関しては、「会社での健康診断実施率 100%を維持していくこと」「有給休暇が取得しやすい職場風土を醸造し、有給取得率を限りなく 100%に近づけること」等の取組みを実施し、従業員の健康づくりに努めている。また、ドライブレコーダーやバックモニター、積み荷・荷下ろし作業用のパワーゲートを積極的に採用するなど、安全性に資する設備や従業員の負担軽減に資する設備等を積極的に採用している。こうした同社の取組みは対外的にも評価されており、「健康経営優良法人」「安全性優良事業所」認定をそれぞれ取得している。



人と、地域と、未来をむすぶ

**十六総合研究所**

また、2021年には「SDGs宣言」を実施し、全社を挙げた活動を行っている。

【SDGs宣言（下表は同社提供資料を基に十六総研にて作成）】

<p>品質への取組み</p>	<p>食品物流企業として、品質や鮮度を維持するための厳しい管理基準を設け、決められた「場所・時間」に、「品質・状態」を保ったままお届けする輸送サービスを展開してまいります。</p> <p>〈具体的な取組み〉</p> <p>安全性優良事業所（Gマーク）の取得を目指す。</p> <p>保有車両にデジタルタコグラフを搭載し、運行状況をリアルタイムに把握。</p> <p>株式会社キューソー流通システム主催のドライバーズコンテスト及び安全講習への参加。</p> <p>車両点検・管理の徹底、車両庫内消毒の実施。</p> <p>ドライブレコーダーの設定。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育を みんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>8 働きがいも 経済成長も</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> </div>
<p>環境への取組み</p>	<p>地球環境へ与える事業活動の影響力を認識し、（一社）全日本トラック協会の定める環境基本計画に則った輸送サービスを展開してまいります。</p> <p>〈具体的な取組み〉</p> <p>グリーン経営認証取得を目指す。</p> <p>車両の庫内温度管理が可能な車載端末を導入し、余分なエネルギー使用を削減。</p> <p>定期的に最新規制に適合した最新型車両に更新。</p> <p>また、既存車両は規制に適合する様に随時装置設置。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも 守ろう</p> </div> </div>



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

<p>雇用促進、 労働環境の整備</p>	<p>差別の無い雇用を実施し、全ての人事処置を公平・公正に行い、一人ひとりのスキルアップを支援してまいります。また、健康に留意した職場環境を構築してまいります。</p> <p>〈具体的な取組み〉</p> <p>公平な採用の実施、人事制度の構築。</p> <p>公的資格取得費用の全額補助。</p> <p>運行管理を徹底するため、取引先・荷主の協力を取りつけ、労働環境の改善に取り組む。</p> <p>ドライバーのシフト制勤務を廃止し、勤務体制を固定。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px;"> <p>3</p> <p>すべての人に 健康と福祉を</p>  </div> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px;"> <p>4</p> <p>質の高い教育を みんなに</p>  </div> <div style="background-color: #ff5722; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px;"> <p>5</p> <p>ジェンダー平等を 実現しよう</p>  </div> <div style="background-color: #9c27b0; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px;"> <p>8</p> <p>働きがいも 経済成長も</p>  </div> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px;"> <p>10</p> <p>人や国の不平等 をなくそう</p>  </div> </div>
<p>事業継続</p>	<p>自然災害・事故・感染症等突発的な出来事に対して、平常時より対策を講じ、緊急時における事業継続のための方法・手段を定め、事業が安定して継続できる体制を構築してまいります。</p> <p>〈具体的な取組み〉</p> <p>事業継続力強化（BCP）を策定し、経済産業省の認定取得を目指す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #ff9800; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px;"> <p>11</p> <p>住み続けられる まちづくりを</p>  </div> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px;"> <p>13</p> <p>気候変動に 具体的な対策を</p>  </div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px;"> <p>17</p> <p>パートナーシップで 目標を達成しよう</p>  </div> </div>



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

16FG

## 2. インパクトの特定

### (1)事業性評価

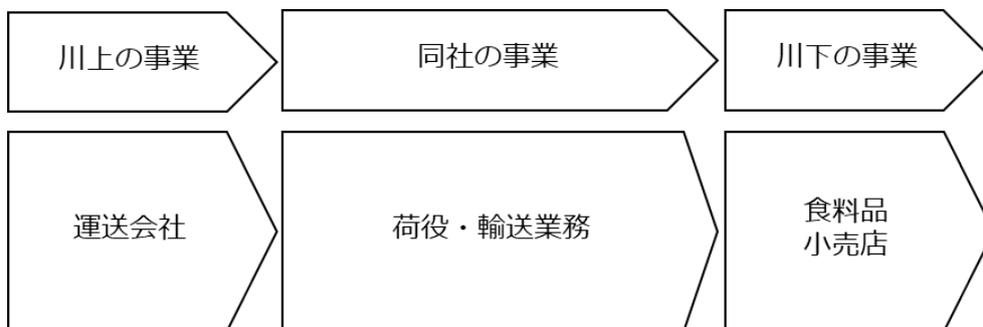
同社事業の最大の特徴としては、冷凍・冷蔵の食品輸送に特化していることが挙げられる。食品に特化することで設備面の充実がはかられており、冷凍輸送に関してはマイナス 30 度まで対応可能な車両を取り揃えている。その他、アイスクリームやコンビニ弁当等の特殊な温度管理が必要になる商品に関しても適温が維持管理できる車両を取りそろえることで、他社の運送事業者との差別化をはかるとともに、食品の安全性に寄与している。

### (2)バリューチェーン分析

同社は、食品のバリューチェーンの中で、食品をコンビニエンスストアやスーパーマーケット等の小売店に配送する役割を担っている。主に、食品運送を取り扱う大手運送会社の協力会社の立ち位置として、食品運送のバリューチェーンを支えている。

最新鋭の設備を使用するとともに、東海エリアを主軸とすることで、運送事業者として「食の安全性に寄与している。

#### ●バリューチェーン図



(3)インパクトレーダーによるマッピング

●インパクトマッピング（インパクトレーダー改訂版 2022 に基づき十六総研作成）

バリューチェーン			川上の事業		同社の事業				川下の事業		
国際標準産業分類			4923		4923		5224		4711		
			道路貨物運送業		道路貨物運送業		貨物運送取扱業		食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業		
大分類	インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	
社会	人格と人の安全保障	紛争									
		現代奴隷									
		児童労働									
		データプライバシー									
		自然災害		●●		●●					
	健康および安全性	-		●●		●●		●		●	
		水									
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質	食糧								●	●
		エネルギー									
		住居									
		健康と衛生									
		教育									
		移手段	●			●					
		情報									
		コネクティビティ									
		文化と伝統									
		ファイナンス									
	生計	雇用	●			●		●		●	
賃金		●			●		●		●		
社会的保護			●			●		●		●	
ジェンダー平等											
平等と正義	民族・人権平等										
	年齢差別										
	その他の社会的弱者										
	強固な制度・平和・安定	市民的自由									
社会経済	健全な経済	法の支配									
		セクターの多様性									
	零細・中小企業の繁栄	●			●		●		●●		
	インフラ	-									
経済収束	-										
自然環境	気候の安定性	-		●●		●●					
	生物多様性と生態系	水域									
		大気		●●		●●					
		土壌		●●		●●					
		生物種		●●		●●		●●			
		生息地		●●		●●					
	サーキュラリティ	資源強度		●●		●●					
		廃棄物		●		●		●			

マッピング中の「●●」は重要な影響があるトピック、「●」は影響があるトピックを示している。

同社の事業と同社の川上・川下の事業を国際標準産業分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させ  
たうえ、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI）と「ネガティブ

インパクト」(以下 NI) を想定する。

同社の事業については「道路貨物運送業 (ISIC:4923)」「貨物運送取扱業 (同 5224)」を、同社の川上の事業については「道路貨物運送業 (ISIC:4923)」を、同社の川下の事業については「食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業 (同 4711)」をそれぞれ適用し、発生するインパクトの検証を行った。

#### 【川上の事業】

川上の事業については、同社事業活動が与える影響が軽微であると判断し、検証を省略した。

#### 【同社の事業】

同社の事業においてはインパクトマッピング上で発現が指摘されるインパクトエリアを網羅的に検証する。

「健康および安全性」のエリアにおいては、陸上輸送に伴う大気汚染や、荷役現場における労働環境等が NI として指摘される。

同社では、定期的に最新規制に適合した車両へ入れ替えることにより、排気ガス・大気汚染対策を適切に実施している。また、ドライブレコーダーやバックモニター、積み荷・荷下ろし作業用のパワーゲート等の従業員の安全や、負担軽減に資する設備の積極的な採用、休暇が取りやすい労働環境の整備等の取り組みによって、労働負荷の軽減に努めている。

SDGs では以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」
- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」

「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質 (移動手段)」のエリアにおける PI においては輸送システムへのアクセスビリティが PI として指摘される。

同社が、設備面の充実、運行管理の徹底を通じて食品安全を遵守することでこの PI の拡大に貢献していると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」
- ・「11.2:交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」

「生計 (雇用、賃金)」のエリアにおいては、従業員の雇用や生計の創出という PI が指摘される。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

同社では、大型免許等の公的資格費用を全額補助し、従業員のスキルアップを積極的に支援することで、このPIの拡大に貢献している。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」
- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

「気候の安定性」「生物多様性と生態系（大気）」「生物多様性と生態系（土壌、生物種、生息地）」「サーキュラリティ（資源強度、廃棄物）」のエリアにおいては、トラック輸送に伴う温室効果ガスの排出や大気汚染、土壌汚染、エネルギー資源の利用や車両の入替えに伴う廃棄物の発生等のNIが指摘される。

同社では、定期的な最新車両への入替えによる燃費の改善、デジタルタコグラフの点数に基づいたエコドライブの推進等の取組みを実施し、これらのNIの緩和に努めている。また、車両入替えの際には法規制に則り、適切な事業者へ売却・処分を依頼している。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.2:持続可能な生産消費形態を確保する」
- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」

インパクトマッピング上での直接の指摘はないものの、「インフラ」のエリアにおいても同社がPIを与えていると考えられる。同社が運行管理を徹底し、食品運送のサプライチェーンを下支えすることで、本PIの拡大に貢献していると考えられる。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」

なお、「人格と人の安全保障（自然災害）」のエリアにおけるNI、「生計（社会的保護）」のエリアにおけるNI、「健全な経済（零細・中小企業の繁栄）」のエリアにおけるPIについては、同社事業との関連性が希薄であると判断し、検証を省略した。

#### 【川下の事業】

川下の事業については、同社事業活動が与える影響が軽微であると判断し、検証を省略した。

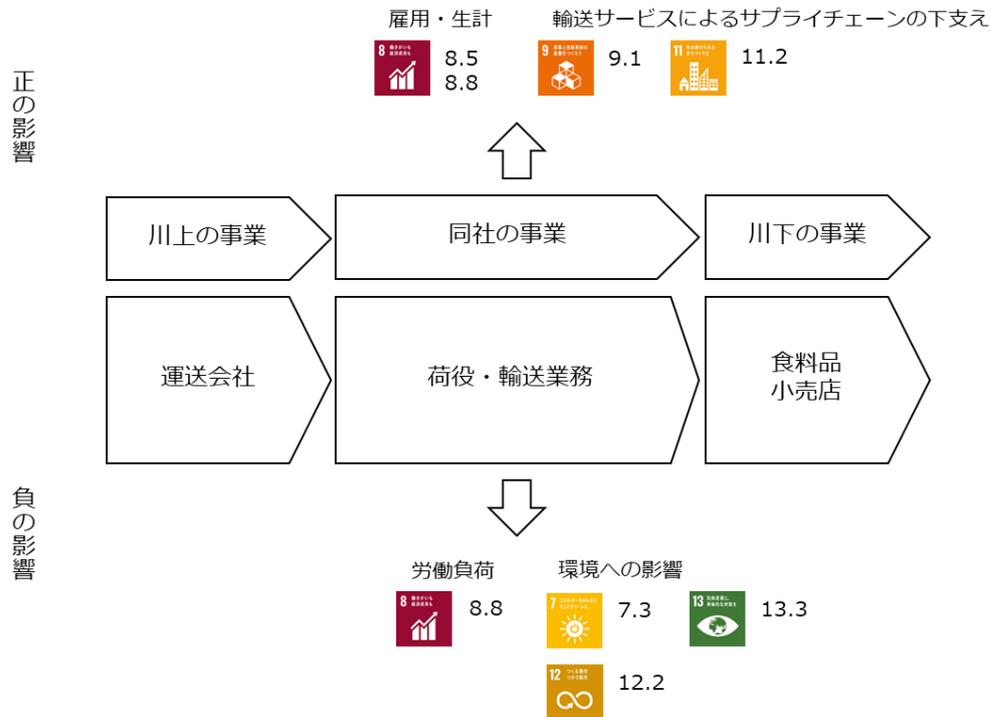


人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(4)特定したインパクト

下図は「バリューチェーン分析」「インパクトマッピング」の結果を踏まえて、同社のバリューチェーンが与えるインパクトを可視化したものである。



以上を踏まえて同社のインパクトを下記のように特定した。

- 輸送サービスによる食品産業のサプライチェーンへの貢献
- 環境に配慮した事業活動
- 働きやすい労働環境の整備



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

## ■ 輸送サービスによる食品産業のサプライチェーンへの貢献

同社はこれまで冷凍・冷蔵の食品輸送に特化し、食品のサプライチェーンを下支えすることで、社会的・経済的な側面においてポジティブな影響を与えてきた。今後は、自社の事業規模を拡大させていくことで、上記のインパクトの拡大に取り組む方針である。

運送業界では、ドライバーの高齢化に伴う担い手不足が深刻な業界課題となっているなか、同社では積極的な若手人材の採用と大型免許の取得支援に取り組むことで、食品のサプライチェーンを長期安定的に下支えできる体制を整備していく方針としている。同社が人員規模を拡大させ、東海地方の食品輸送のサプライチェーンを持続可能なものとすることで、よりポジティブなインパクトがもたらされるものと考えられる。

このインパクトは UNEP FI のインパクトリーダーでは「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」「インフラ」のエリアに該当し、社会的・環境的側面の PI を拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」
- ・「11.2:交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」

## ■ 環境に配慮した事業活動

同社は、ドライバー増員によって食品輸送のサプライチェーンをより一層強固なものにしていく一方で、自社事業から生じる環境負荷についても適切に管理・低減させていく方針である。

同社では、定期的に車両の入替えを実施し、その時々最新の燃費基準に適合したものを採用している。今後も定期的に最新基準に適合した車両への入替え実施することで、燃費効率の向上、ひいては自社事業から生じる環境負荷の低減に取り組んでいる方針としている。

このインパクトは UNEP FI のインパクトリーダーでは「気候の安定性」のエリアに該当し、環境的側面の NI を緩和すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

## ■ 働きやすい労働環境の整備

同社は従業員にとって、より働きがいのある労働環境を整備していく方針であり、具体的には従業員の積極的な有給取得を支援していく方針である。

同社では、従業員の家族も含めたバースデー休暇、失恋休暇、ハネムーン休暇、出産休暇、入学式休暇、等従業員のニーズもヒアリングしながら、ユニークな休暇制度をラインナップしている。今後も、従業員に寄り添った制度を拡充させていくことで従業員が休暇を取得しやすい環境を整備させていく方針である。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「健康および安全性」のエリアに該当し、社会的側面の NI を緩和すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

## (5)インパクトニーズの確認

### ①日本におけるインパクトニーズ

国内におけるSDGインデックス&ダッシュボードを参照し、そのインパクトニーズと会社のインパクトとの関係性を確認した。

本PIFにおいて特定したインパクトに対応するSDGsのゴールは、以下4点である。

- ・「8:包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
- ・「9:強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
- ・「11:包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
- ・「13:気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」

国内におけるSDGダッシュボード上では、「13」については「大きな課題が残っている」、「8」「11」については「重要な課題が残っている」とされており、同社の燃費改善に向けた取組みや強固なサプライチェーンの構築に向けて自社の人員を強化する取組み等が国内におけるインパクトニーズと一定の関係性を有することを確認した。



(出所：SDSN)

## ②愛知県におけるインパクトニーズ

また同社が地元愛知県を中心として事業を手掛けていることから、「愛知県 SDGs 未来都市計画（第2期）」を参照し、愛知県内における SDGs 達成に向けての課題を確認した。下記のとおり、愛知県は「カーボンニュートラルの実現にも取り組んでいくことが重要」としており、トラックの燃費改善に向けた取組みが、愛知県内におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

「愛知県 SDGs 未来都市計画（第2期）」より今後取り組む課題を抜粋

### （経済面）

- デジタル化の急速な進展に伴って、産業構造の大きな変化が見込まれる中、自動車産業を始め、あらゆる産業において、イノベーションを巻き起こす力強い産業づくりの推進が必要。

### （社会面）

- 今後、人口減少局面に転じるとともに、急速に高齢者が増加。すべての人が参画し、生涯にわたって活躍できる社会を築いていくことが課題。
- 若年女性の東京圏への流出超過が拡大する中で、持続的な発展のためには、若年女性の流入・定着が重要で、企業等で女性が活躍できる環境をつくっていくことが課題。

### （環境面）

- 都市化や産業活動により失われた各地域の生態系を再生・回復、維持していくためには、多様な主体が連携して生態系を守っていくことが課題。また、我が国随一の産業県として、企業等と連携しながらカーボンニュートラルの実現にも取り組んでいくことが重要。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認

ここでは特定した PI について追加性があること、十六銀行の SDGs の取組みと方向性が同じであることを確認する。本 PIF で特定した PI は「輸送サービスによるサプライチェーンへの貢献」である。

同社は、次世代の担い手不足が叫ばれるトラック業界において、積極的な採用と資格取得支援に向けた活動を進捗することで、食品輸送のサプライチェーンを長期安定的に下支えしていく方針であり、SDGs の達成に向けて追加性があるものと評価できる。

十六フィナンシャルグループでは、「十六フィナンシャルグループ SDGs 宣言」の中で「地域社会の活性化」「地域社会の持続的発展」「多様な人材の活躍推進」「環境保全と気候変動対策」「ガバナンスの高度化」の 5 つを SDGs 達成に向けた重点課題（マテリアリティ）としている。

本 PIF で特定したインパクトは、「地域社会の持続的発展」と方向性が一致する。

以上から、本 PIF の取組みは追加性のある PI 創出支援を行うものであり、その本源的目的との合致を確認したうえで SDGs 達成に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることを目指すものである。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

### 3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、先に特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する。

#### ■ 輸送サービスによるサプライチェーンへの貢献

項目	内容
インパクトの種類	経済的側面においてポジティブインパクトを拡大 社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトエリア	「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」「インフラ」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	・採用の強化と大型免許取得支援によって、自社の人員体制の増強につなげていく。 ・自社の人員体制を増強することで、食品輸送のサプライチェーンに一層貢献していく。
KPI	・2030年3月期までに大型免許保有者を45名まで増加させる。 (2024年8月現在：34名) ・2030年3月期までに売上高10億円以上を達成する。 (2024年3月期：7.3億円)



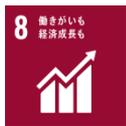
人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

■ 環境に配慮した事業活動

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトエリア	「気候の安定性」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低燃費車両（最新の燃費基準適合車）への入替えやエコドライブの推進によって、トラック（2024年8月現在：主要稼働トラック全24台）の燃費効率を改善する。</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年3月期まで4tトラック（10台/全24台）の平均燃費を毎年前年比10%以上ずつ改善していく。 （2024年3月期：約4.6km/L）</li> <li>・2030年3月期まで10tトラック（14台/全24台）の平均燃費を毎年前年比5%以上ずつ改善していく。 （2024年3月期：約3km/L）</li> </ul>

■ 働きやすい労働環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトエリア	「健康および安全性」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・休暇制度の拡充と適正な人員配置によって、従業員の有給休暇取得向上につなげていく。
KPI	・2030年3月期までに、従業員一人当たりの有給休暇取得日数を15日以上とする。 (2024年3月期実績：10日)

## 4. モニタリング

### (1)三幸運輸におけるインパクトの管理体制

同社では、常務取締役の麻田氏が中心となり自社業務や事業計画などの棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定ならびに KPI の策定を行った。

今後については、代表取締役の澤田氏を中心として SDGs の推進ならびに本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

#### 【モニタリング体制】

統括責任者	代表取締役 澤井 博 氏
プロジェクトリーダー	常務取締役 麻田 哲也 氏

### (2)当社によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と十六銀行、十六総合研究所の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、十六総合研究所が現時点で入手可能な公開情報、三幸運輸から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 十六総合研究所が本評価に際して用いた情報は、十六総合研究所がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。十六総合研究所は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は十六総合研究所に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所